

## 令和3年度 第2回三島市図書館協議会 会議録 [概要]

### 1 開催日時

令和4年2月10日（木）午後2時00分から午後3時15分まで

### 2 開催場所

生涯学習センター3階 市民ギャラリー

### 3 出席者

#### (1) 委員（順不同）

白井 由美子、井上 雅晴、小澤 高好、永田 浩一、竹山 美奈子 計5名

#### (2) 事務局

西島教育長、鈴木教育推進部長、米山館長、中島館長補佐、市川主幹、志村主任司書、  
渡邊主任司書、菊地副主任

### 4 会議の公開・非公開の別

公開

### 5 傍聴人の人数

0人

### 6 会議の内容

#### (1) 開会

#### (2) 教育長挨拶

#### (3) 会長挨拶

段会長が欠席のため、白井副会長が職務を代理。

#### (4) 議事

議事に入る前に、前回会議で委員より寄せられた質問事項に関して、事務局より回答。

##### ① 新型コロナウイルスの影響について

事務局より説明。

##### ② 令和3年度 利用状況について

事務局より説明の後、次のような質疑応答・意見があった。

( 委 員 )	1ページのホームページアクセス数のところに、『他国からの機械的情報収集とみられる大量アクセスがあった』とあるが、具体的にはどういうことか。
( 事 務 局 )	昨年度の年間アクセス件数を集計したところ、桁の違う数値となっていた。原因を調べたところ、中華人民共和国からの機械的な一斉アクセスがあったことが分かった。本来のアクセス件数を算出したいところだが、1件ごとに精査することは難しいため、前年度の数値を参考に設定させていただいた。

( 委 員 )	三島のことを知りたいというわけではなかったということか。
( 事 務 局 )	お見込みのとおり。
( 委 員 )	他のシステムに影響はなかったか。
( 事 務 局 )	ホームページのサーバーと、システムのサーバーを分離しているため、業務に影響はなかった。
( 委 員 )	目的は何だったのか。
( 事 務 局 )	目的は定かではないが、自治体等を標的として行われる事例はあるようだ。
( 委 員 )	これは個人的な感想になるが、1月の図書館講座は会場と Zoom の両方で開催され、大変よかったと思う。自分は会場参加の予定だったが、新型コロナのこともあり、Zoom に切り換えてもらった。その際の事務局の対応は、とてもスムーズだった。ただ、画面上では資料が見にくいことがあるので、ネット配信に応じた資料の掲示や編集の工夫をすれば、さらに良くなると思う。
( 事 務 局 )	Zoom の画面だけだと少しわかりづらいことがあるかもしれない。また、参加者から音声聞き取りにくかったという感想も寄せられた。2月19日の講座では、今回の反省点を活かしていく。今後も有意義な講座を考えていきたい。
( 委 員 )	開催から1週間程度、見逃し配信という形で動画を公開することは可能か。
( 事 務 局 )	2月の講座は、まん延防止等重点措置の期間中ということもあり、会場参加を取りやめて Zoom のみでの開催に変更した。Zoom での視聴が難しい方もいらっしゃるので、講師の先生の許可を得て、3月以降に、当日の動画の上映会を企画しているところ。新型コロナを機に、Zoom の経験を積むことができたので、今後も、1人でも多くの方に参加していただくための仕組みを考えていきたい。

③ 令和4年度 事業計画について

事務局より説明。

④ 第3次三島市子ども読書活動推進計画について

事務局より説明の後、次のような質疑応答・意見があった。

( 委 員 )	13ページに『学校における子どもの読書活動の推進』とあるので、学校が今、取り組んでいることを補足させていただきたい。 まずは、「三島市教育研究会図書班会」では、市内の教員が集まり自分たちの取り組みを検討しているが、低学年のうちから本に触れることが大切だということが話題にあがっており、低学年のうちから図書室を利用
---------	---

できるようにしようという学校が増えてきている。学校評価では、『長伏小の子どもは、学校や地域の図書館を利用し、読書に親しんでいます』という設問に対し、「あまり」「いいえ」と答えた子どもは52パーセント、保護者は46パーセントという結果だった。高学年になると、時間がなくて図書室をあまり利用することができないというコメントもあった。ジンタ号は、低学年の子どもたちが多く利用している。子どもたちの、読書が好きな気持ちをどうつなげていくかが課題だと思う。

次に、19ページの『アーティストなど地域人材との連携』についてだが、毎年、絵本作家の宮西達也さんに読み聞かせを行っていただいている。本当に素晴らしい取り組みだと思う。宮西さんが、絵本は子どもが読むものと思っているかもしれないが、大人に向けて書いているという趣旨のことを言っていた。その言葉を受けて、図書班会でも、宮西先生の読み聞かせを教員や保護者に体験してもらうことができないかという話をしている。読み聞かせを体験すれば、保護者は、絶対に絵本を買うと思うので、そこから、子どもたちに広まっていくのではないかなと思う。三島市長も、積極的に読み聞かせを行ってくださっているし、外部の力を借りることは子どもたちにとって良いことだと考えている。また、『子ども読書手当』という形での現金給付を実施している自治体があるが、面白い取り組みだと感じている。

最後に、GIGA スクール構想だが、最近の新聞に『TEAM 未来の学校図書館から子供たちに学びを』という記事が掲載されていた。ポプラ社が開発したデジタルプラットフォームを通じて提供されている Yomokka! というサブスクリプションサービスがあり、無料期間が設定されていたので試してみたが、子どもの手元に図書館や博物館があるようなもので、物理的な図書室をどうしていくかということも課題としてはあるが、うまく取り入れながら進めていこうと思う。今日も、朝学の時間帯に賑やかだと思ったら、6年生がタブレットを持ちながらあちこちにおいて、アプリケーションで植物を調べていた。校長室にある蘭の写真を撮り「ヒスイランだ」などと言っており、子どもたちは我々が思うよりもどんどん新しいことに取り組んでくれている。

( 委 員 ) タブレットは、全員が持っているのか。

( 委 員 ) 三島市では、小1から中3まで、全員に貸与されている。

( 委 員 ) 学校に置いてあるのか。

( 委 員 ) 学校によると思うが、基本は持ち帰っている。

( 委 員 )	孫を読書好きにしようと思うのだが、なかなか本を読んでくれない。何をやっているかといえば、タブレットでプログラミングをしているという。ゲーム好きなので、たとえば電子書籍で攻略本を読んだりして、最終的に本にたどりつくためのきっかけになればいいかなと思う。小さい時からどのように本に接するかということだと思うが、親が本好きだと子どももそうなるので、親御さんの意識を変える機会をつくることも必要かもしれない。
( 委 員 )	子どもたちにタブレットが配布されているが、個人的には、小さいうちはなるべく五感を使って、アナログな世界で「うまくいかない」という経験を積むことも必要だと思っている。本の紙の香りや、ページをめくるときの音などを楽しむことを知ってからタブレットに移行してほしいという思いがある。本が好きな親御さんは、子どもにもたくさん読み聞かせをしてくれると思うが、良い本が選書され置いてある学校図書というの大きな存在なので、そこを盛り上げていくことで、市町の図書館も盛り上がっていくのかなと感じている。
( 委 員 )	タブレットは便利だが、紙も捨てがたい。
( 委 員 )	サブスクリプションが時流なので、今の子どもたちは「紙」の必要性を感じていないかもしれない。
( 委 員 )	電子書籍について、図書館はどのように考えているか。
( 事 務 局 )	公共図書館向けのサービスはあるが、1冊あたりの単価が高く、貸出冊数の制限もあり、一般的に良く売れるタイトルは入っていない。学校で扱われている子ども向けのサービスのほうが、それなりのラインナップのようなので、電子書籍の普及は教育現場のほうで先に進んでいくのではないかと感じている。
( 委 員 )	三島市は、タブレットに表示する教材のための予算をつけてくれているので、自由に使える環境がある。

(5) 閉会